

WS 3	近代文学を読む			*講義の後に討論あり
	【定員】30名 【受講料】2年・1年会員ともに 8,580円 聴講生 10,010円			
	『歴史・文学・人間学』【ワークショップ】文学【時間】毎回 13時00分～ 15時00分 (計7回)			
概要	このWSでは、日本近代文学史の変遷をたどりながら、大正期から昭和初期に活躍した代表的な作家による短編小説を受講生の皆さんと共に読んでいきます。この時期の文学には、今ではなじみの薄くなった当時の生活文化に関わる語彙が多く登場します。WSでは、丁寧に注釈を加えながら、作品の時代背景について解説し、作品に対する理解を深めていきます。この作業を通じて、それぞれの文学作品が現実社会とどのように切り結んでいるのかを考えていきます。			
回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	4/12(水)	川崎市生涯学習プラザ	佐藤春夫『田園の憂鬱』(新潮文庫、岩波文庫) ★ 「都市」と対比される「田園」という舞台設定に着目し、都会を逃れた田園において生活する主人公の憂鬱で病的な心情の写実的な吐露と、その心象風景の抒情的描写という小説の有り様を考察する。	相模女子大学講師 安藤 史帆
2	5/10(水)		有島武郎『一房の葡萄』(岩波文庫、角川文庫) ★ 作中に多様に表出される「色」の意味や、「葡萄」の象徴性について、「横浜の山の手」という場所性や、『赤い鳥』に掲載された創作童話であることなどに着目しながら考察する。	
3	5/31(水)		江戸川乱歩『二銭銅貨』(講談社) ★ 発表当時のメディアの状況を視野に入れながら、部屋にこもる二人の男性の紡ぐ語りや、言葉を介した暗号に着目し、「言葉」に意識の向けられた探偵小説の構造について考察する。	
4	6/14(水)		宮沢賢治『なめとこ山の熊』(角川文庫) ★ 作者の宗教観や思想、同時代の時代状況を概観しながら、作品に浮き彫りにされる「資本主義」における「労働」と「格差」の問題や「殺生」の問題について考察する。	
5	6/28(水)		井伏鱒二『四つの湯槽』(『井伏鱒二全集』第7巻(筑摩書房)) ☆ 同時代背景といかに結びながら温泉宿の舞台があるのか、なぜ客たちは温泉宿に集うのか、本作をもとに作られた清水宏『簪』(1941年)の映画作品との比較をふまえて考察する。	
6	7/12(水)		太宰治『姥捨』(『太宰治全集』第2巻(筑摩書房)) ★ 作家自身の心中未遂事件を題材に創作された本作において、温泉という舞台で、男女の間で「死」に向かう内面がいかに語られ、心中失敗の結末がもたらされるのかを考察する。	
連絡事項	★は青空文庫で読むこともできます。☆は事前にPDF配布。			